

関東大会県予選個人戦は、男子緑岡高、女子県営コートで、いずれもクレートコートを使用して実施。男子は永井、若松（日一）、女子は矢口、柴山（土二）が優勝、大きな波乱もなくそれぞれ16組の県代表が決定された。

関東選手権本大会は、7月21、22日の両日神奈川県小田原市で開催された。本県は昨年度、個人戦で男女共優勝しているので、選手達は先輩の偉業を固守すべく、全力を尽して闘った。各選手、よく頑張ったが、男子は期待の永井、若松（日一）が当らず、辛うじて皆川、畠山（日工）が4回戦に進出、ベスト32にとどまった。団体戦も惨敗に終って勢いが上らなかった。しかし、女子の活躍は盛んで、本多、林（日二）が第1シードの堀内、高山（東京富士見）を4-3で破り、準決勝に出て、金井、木村（埼玉川越女）と対戦、マッチポイントを奪い合う熱戦を展開、有利に試合を進めながら4-3で勝運は相手についてしまった。鈴木、黒沢（日商）も準々で川越女の同チームと対戦、やはり4-3のもう一步というところで惨敗した。その他、矢口、柴山（土二）、渡辺、藤田（日商）が5回戦でベスト16に、元木、高井（土二）、根本、村山（日二）らが4回戦でベスト32本に入った。今年は優勝こそ逸したが、今年の1、2、3位 独占の成績に次ぐ根性を発揮してくれたことはうれしい。

続く団体戦では、土浦二高が準優勝の成績を収め、磯原高も第3位入賞を果たした。特に土浦二は決勝戦で1対1となったあと、主将同士の決戦でゲームカウント3-2のボールカウント3-1まで追い込みながら逆転されてしまった。「試合に勝って勝負に負ける」結果を招いたことは残念であった。

尚、今年は関東高体連20周年行事が行なわれ、本県では功労者として高橋記明（石二）

先生ほか、9名の旧、現役員の一部が受賞された。

全日本県予選は、土浦市営、石岡二高を会場に実施。個人戦では第1シード永井、若松（日一）が敗れ、第2シード宮田、鈴木（古一）も決勝に出られないという少々意外な試合になったが、広瀬、百目鬼（館一）のチームワークとコントロールのきいた強力なサービスが決まり、皆川、畠山を破って優勝した。女子も男子と同様に、矢口、柴山（土二）や鈴木、黒沢（日商）が決勝まで残らず、伏兵豊崎、伊藤（銚二）と本多、林（日二）の対戦となり、本多組の優勝となった。団体戦は学校代表の名誉をかけているだけに、一戦一戦熱が入った。男子は決勝リーグで、古一、日大土浦、館一、日一が争ったが、古河一が順当に点をあげて優勝した。一方女子団体戦は、6年連続優勝を目指す土浦二が予選リーグで磯原に不覚の一敗を喫したのがたまたま、決勝リーグで全勝しながら無念の涙をのんだ。どこにでもある試合結果の明暗だが土浦二はテスト中の試合が大きく影響したようだ。しかし土浦二の5年連続の大記録はここ当分敗れることはあるまい。それにしても磯原の少数精鋭チームの予想外の活躍は立派であった。

インターハイは千葉県茂原市の新設コートで行なわれた。やはり全国高体連軟式庭球部20周年記念式典が挙行され、本県からは男子優秀校として日立一高、女子優秀校として土浦二高が表彰され、続いて功労者表彰があり永年勤続の旧、現役員が受表彰された。本年は例年と異って開会式を前日に実施、試合は第2日目8時より開始するという事なので、一部本県選手で開始時刻に遅れるという不手際があった。

試合成績を見ると、個人戦は宮田、鈴木（

古一)、永井、若松(日一)、矢口、柴山(土二)、本多、林(日二)らのホープが善戦したが、男女共5回戦で止まり、なかなか全日本における上位進出の壁は厚い感じがした。団体戦は古河一高が2回戦、女子磯原高が3回戦で、優勝校の指宿商業(鹿児島)と当たり善戦したが及ばず惜しくも2-1で敗れた。

国体県予選は8月に実施。これまでの予選方式を若干変更し、予選回数を4回実施することになった。選手にとっては大変厳しい試合であったが、本当に強い選手を選び出すための試みでもある。つまり第1次予選では各ブロック2位までを2次予選に送り、2次予選のブロック1位で3次予選を行ない、3次予選と4次予選戦績を通算して上位3組を県代表にするしくみをとったのである。

第24回長崎国体は、男子がストレート出場で渡辺寿恵(土三教)先生が監督に推された。栃木県国体チームと小山市で交換練習試合を実施、選手の強化向上に意を注いで長崎への意欲を見せた。本大会では善戦及ばず愛知に3-0で敗れたが、ゲーム内容等においては決して悲観的でなく、選手の自覚と強化の積み重ねを行なえば何とかなる気がする。

女子は、関東ブロック予選があり宇都宮市に於て行なわれた。関東代表1県という厳しい予選にも拘わらず各選手とも、最後まで気をゆるめず頑張ったが、結局、予選通過は出来なかった。すべてを来年に期待したいところである。

県民総合体育大会は、年々隆盛を極め、学校対抗戦唯一のオープン戦であるためか熱も上ってきた。だが申込み締切日が夏休み前なので、期限後に申し込みする学校が相当数あり、組合せ等々支障をきたしているので顧問先生方に特に御注意願いたい。

県新人戦は関東インドア大会予選を兼ねて11月28日にスポーツセンターで行なった。水戸地区の先生方には早朝より競技場内のコート作りをして頂き心からお礼を述べたい。役員、非役員を問わず、このように献身的に協力して下さる先生方のおられることは誠に心強く、軟式庭球部の発展を大きく支えてくれるような気がする。インドアは男子、古河一高、女子、鉾田二高がそれぞれ二組を県代表に送り込んで新しい勢力を作り出した。特に今回のインドア大会は、45年度国体強化候補選手選考を兼ねたため、県新人戦ベスト16組をインドアに出場させた。そして予選トーナメント、決勝リーグを行なって上位9組を候補選手に推薦した。来年度におけるこれら選手の練習と活躍を期して止まない。

その他、定通制大会が7月20日水戸会場で実施。勤労生徒であるため、練習量に恵まれないのが気の毒である。定通も昨年から全国大会がもたれ、県予選を含めているので、次第に意欲的な試合が見られるようになった。定通大会では水農の高坂、酒井の両先生にお世話を頂き、無事に出来たこと付記しておきます。

軟式庭球部組織拡充の面では、役員の仕事分掌を作り、本部直属の強化コーチ委員を委嘱し、選手強化、レベル向上を図ってきた。強化コーチは原則としてプレーヤーで、人格競技技能、指導力に優れた先生という条件で各地に、より次の方を推せんしてもらった。即ち、矢口民也(大子一)、永井道夫(北茨城)、古沢滋(結城二)、前島翼二(霞浦)、新堀千代子(麻生)先生らである。さすがに若い指導者だけあって積極的に働らき、協力して下さった。

このように本年度の各行事も役員のお骨折り、また県下各加盟校の先生方の御協力を得

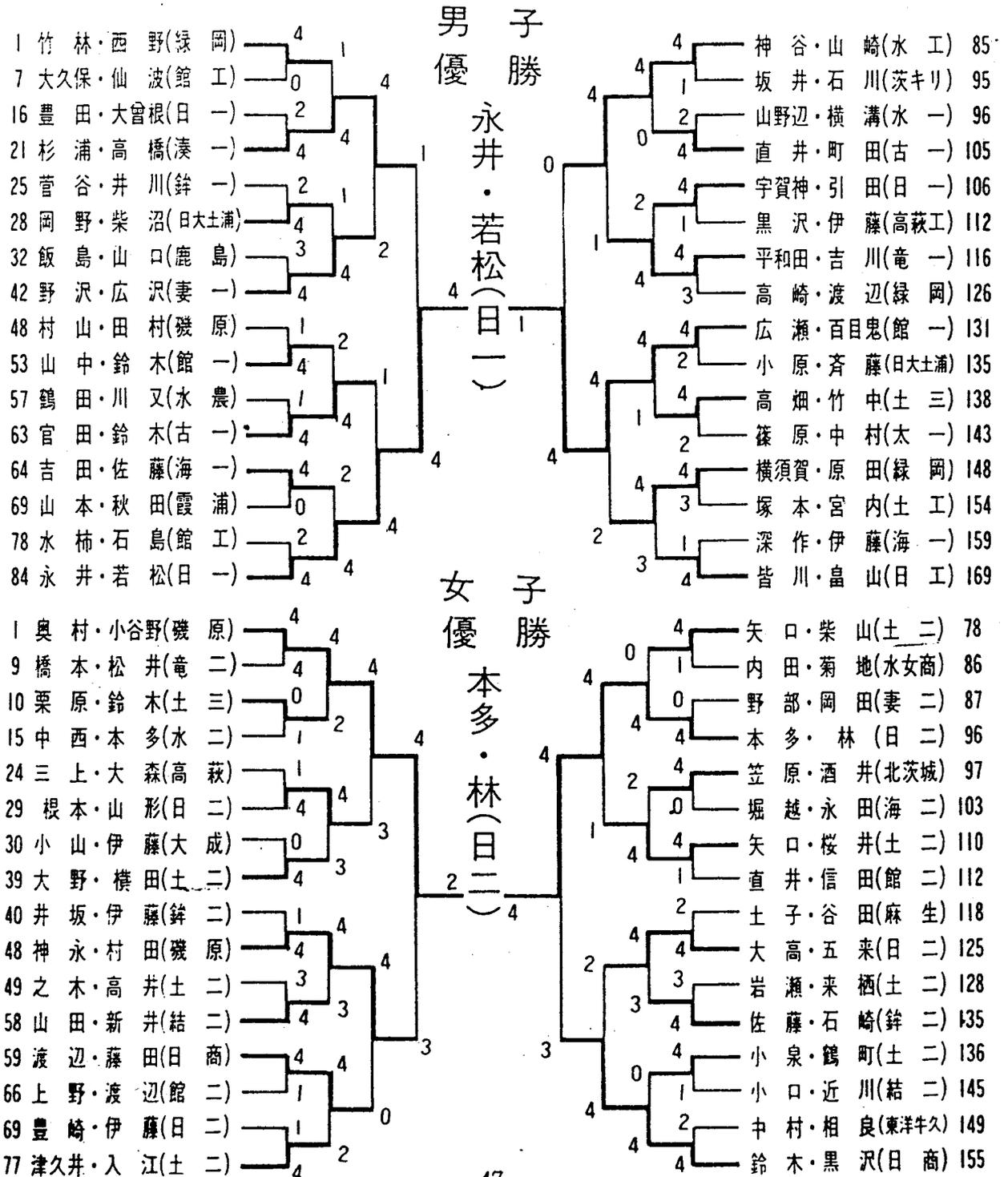
て、滞りなく終了することができたこと御礼申し上げます。唯、この間において全日本県予選組合せ不適正問題が起り、一部の点で本部役員に反省すべき点があったこと深く責任を感じます。何と言っても組合せの公正と審判の厳正が選手の運不運を左右することになるので、慎重になさねばならないと思ってお

ります。

大会運営の面では種々困難な苦勞の多い問題が沢山あります。地区より選出された責任の上に立って誠意をもってやっているつもりですが、個々には不満もあることを承知しています。今後共本県軟式庭球発展のため、御協力、御叱正をお願いする次第です。

## 昭和44年度県高校軟式庭球春季選手権大会

5月2・3日 県営、水農コート



〔概評〕 男子169組、女子155組が参加。本年度最初の公式戦が男女共、水戸会場で行なわれた。新ルール適用で大分神経質になった選手もあったようだが、トラブルもなく、無事終了することができた。役員、各校顧問先生方のご協力のお蔭である。

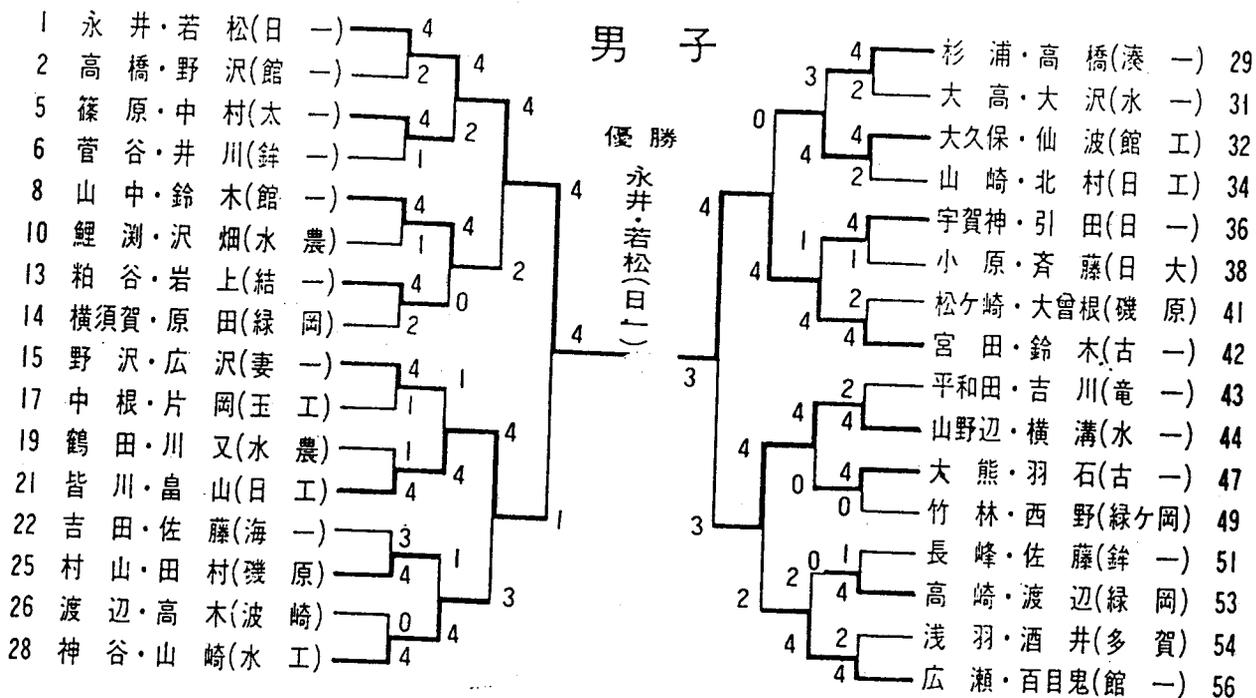
男子は昨年国体出場の経験を持つ日立一の若松が永井とペアーを組み、すい星の如く頭角を現わした下館一の広瀬・百目鬼を4-1で取り、本年の緒戦を飾った。それにしても

第一シートの竹林・西野（緑岡）、皆川・島山（日工）らが振わなかったのは意外で、これからの大会に活躍を望む。

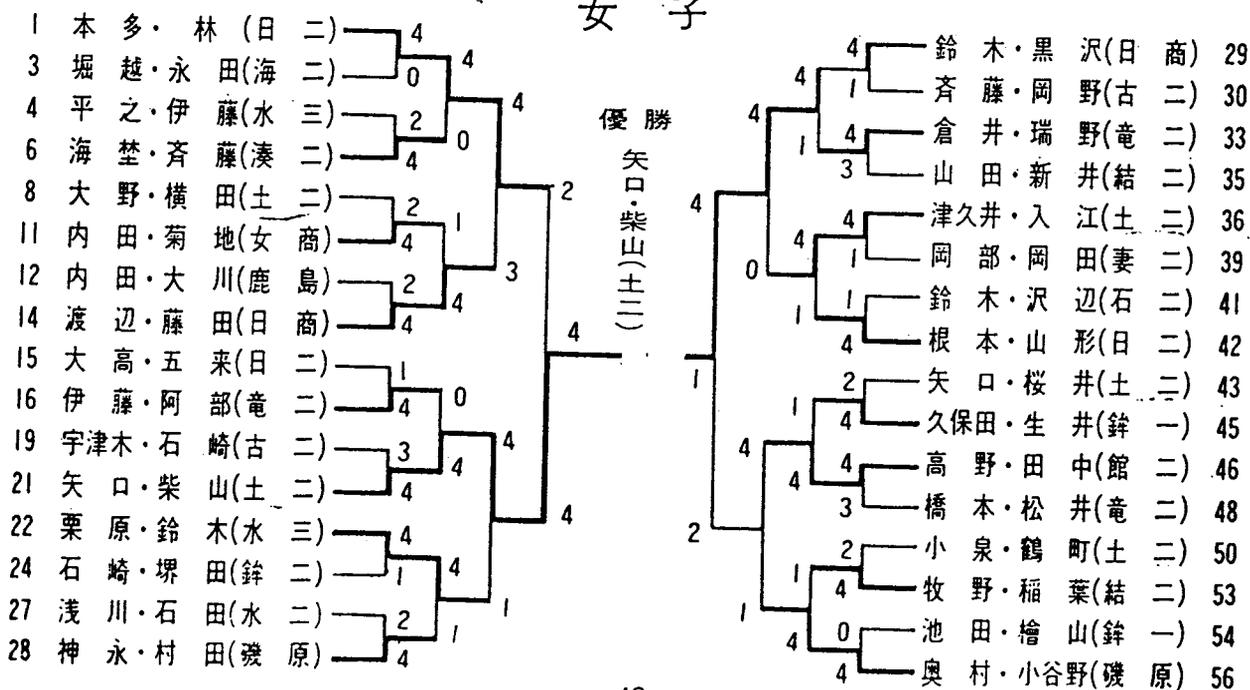
女子は昨年、苦敗を喫した県北勢が大活躍上位を占めた。奥村・小谷野（磯原）の優勝が固いと思われたが、底力を持った本多・林（日二）に4-2で押し切られた。また、神永・村田（磯原）、鈴木・黒沢（日商）らの進歩がみられた。

昭和44年度関東高校軟式庭球選手権県予選  
5月24日 於・緑岡高コート・県営コート

男子



女子



〔概評〕 春季大会推薦の8組、各地区予選を経た8組、男女112組が関東大会出場をかけて熱戦が展開された。男子は永井・若松（日一）が順当に優勝したが、広瀬・百目鬼（館一）が伏兵、山野辺・横溝（水一）にあえなく敗れた。決勝では宮田・鈴木（古一）が永井・若松（日一）に迫り好プレーを見せたが、日立の永井組に一日の長があった。

女子は8本シートのうち、6本を県北勢が占め、辛うじて、2本の中シートに県南が入り、県北選手絶対優勢の組合せ。不調を伝えられた土浦二の矢口・柴山組が回復して、本多・林（日二）、鈴木・黒沢（日商）らを一跳して優勝した。なお、ベスト16が関東大会出場に決定。

44年度関東・全日本軟式庭球選手権県予選（団体戦）

6月7日 土浦市営コート、石岡二高コート

男子予選リーグA

A	1 緑岡	2 霞浦	3 古一	4 鉾一	5 日一	勝点	順位
1 緑岡	—	1	1	③	1	1	3
2 霞浦	②	—	0	0	1	1	5
3 古一	②	③	—	②	②	4	1
4 鉾一	0	③	1	—	1	1	4
5 日一	②	②	1	②	—	3	2

男子決勝リーグ

	1 古一	2 日大	3 館一	4 日一	勝点	順位	備考
1 古一	—	②	②	②	3	1	代表(全日本 関東)
2 日大	1	—	②	0	1	4	
3 館一	1	1	—	②	1	3	
4 日一	1	③	1	—	1	2	代表(関東)

男子予選リーグB

B	1 水農	2 日工	3 日大	4 鹿島	5 館一	勝点	順位
1 水農	—	②	②	②	1	3	3
2 日工	1	—	1	②	1	1	4
3 日大	1	②	—	②	②	3	2
4 鹿島	1	1	1	—	1	0	5
5 館一	②	②	1	②	—	3	1

女子予選リーグA

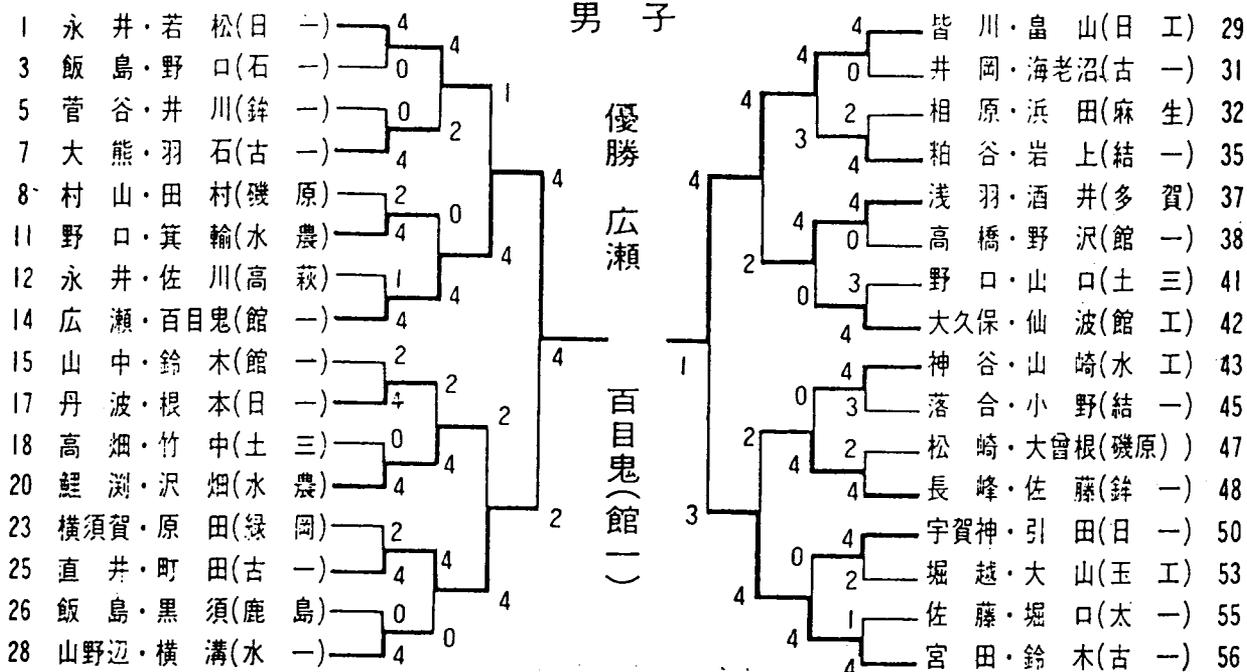
A	1 土二	2 水三	3 磯原	4 鹿島	5 結二	勝点	順位
1 土二	—	②	1	③	②	3	2
2 水三	1	—	1	③	0	1	4
3 磯原	②	②	—	②	②	4	1
4 鹿島	0	0	1	—	0	0	5
5 結二	1	③	1	③	—	2	3



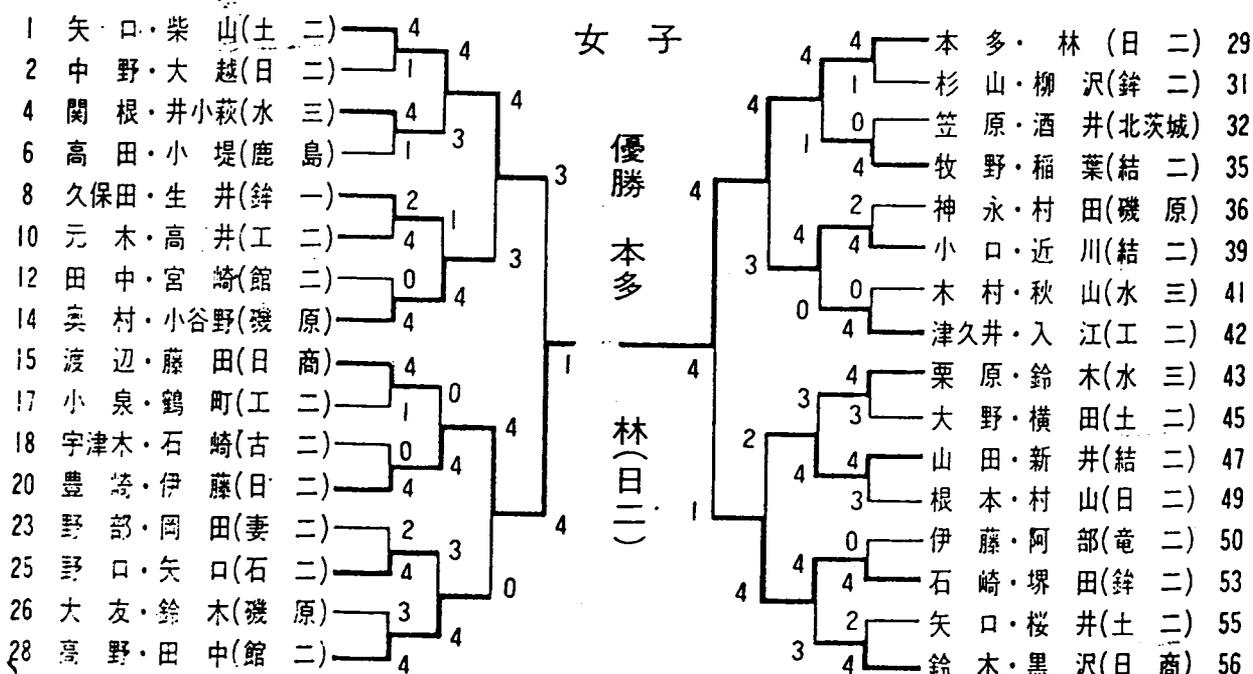
# 昭和44年度全日本高校軟式庭球選手権大会県予選

6月8日土浦市営コート

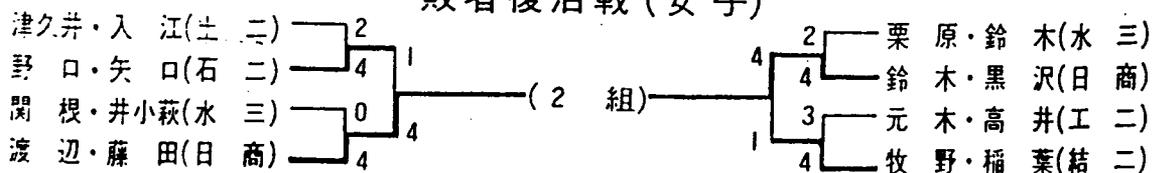
## 男子



## 女子



## 敗者復活戦(女子)





〔概評〕 県民総体も回を重ねるに従い、盛り上がりが見えてきた。男女共棄権校13を数えたが、試合は順調に行なわれ、前日は2回戦まで、残りを第2日目に消化した。

結果は男子は日立一高、女子は鉾田二高が二連勝した。国体県代表選手二組を抱える磯原か日立二あたりが優勝と予想したが、気のゆるみと作戦の失敗から敗れたのは納得ゆかないものがある。

### 第20回関東高校軟式庭球選手権大会

1. 期日 7月21, 22日
2. 場所 小田原市市営コート
3. 戦績

#### ◎男子：個人戦

- 4回戦 皆川・嶋山(日工)  
 広瀬・百目鬼(館一)  
 直井・町田(古一)
- 3回戦 永井・若松(日一)  
 宇賀神・引田(日一)  
 宮田・鈴木(古一)  
 村山・田村(磯原)
- 2回戦 神谷・山崎(水工)  
 野沢・広沢(妻一)  
 豊田・大曾根(日一)  
 山中・鈴木(館一)  
 山野辺・横溝(水一)  
 張替・伊藤(古一)
- 1回戦 大久保・仙波(館一)  
 粕谷・岩上(結一)  
 篠原・中村(太一)  
 丹羽・根本(日一)  
 高崎・原田(緑岡)  
 大熊・羽石(古一)
- 棄権 杉浦・高橋(湊一)

#### ◎女子個人戦

- 準決勝 本多・林(日二)
- 準々決勝 鈴木・黒沢(日商)
- 5回戦 矢口・柴山(土二)  
 渡辺・藤田(日商)
- 4回戦 元木・高井(土二)  
 根本・村山(日二)
- 3回戦 神永・村田(磯原)  
 奥村・小谷野(磯原)
- 2回戦 内田・菊地(水女商)  
 収野・稲葉(結二)  
 津久井・入江(土二)  
 久保田・生井(鉾一)  
 大友・鈴木(磯原)  
 高野・田中(館二)  
 倉井・瑞野(竜二)
- 1回戦 伊藤・阿部(竜二)  
 鈴木・安田(磯原)  
 海埜・斉藤(湊二)  
 大野・横田(土二)  
 栗原・鈴木(水三)

#### ◎男子・団体戦

- 1回戦 古河一高1-2銚子商(千葉)  
 日立一高1-2沼田高(群馬)

#### ◎女子・団体戦

- 決勝戦 土浦二高1-2富士見(東京)
- 準決勝戦 土浦二高2-1小川高(埼玉)  
 磯原高1-2富士見(東京)
- 2回戦 土浦二高2-1高津高(神奈川)  
 磯原高2-1神奈川高(〃)
- 1回戦 土浦二高3-0桐ヶ丘女大付属(群馬)  
 磯原高3-0松尾高(千葉)

○土浦二は2位、磯原は3位入賞。

昭和44年度全国高校総体  
全日本高校軟式庭球選手権大会

1. 試合日程

- 8月1日 女子開会式  
8月2日, 3日 女子選手権  
8月4日 男子開会式  
8月5日, 6日 男子選手権

2. 会場 千葉県茂原市営, 長生高コート

3. 戦績

○女子個人戦

- 5回戦 矢口・柴山(土二)  
本多・林(日二)  
3回戦 鈴木・黒沢(日商)  
高野・田中(館二)  
石崎・塚田(銚二)  
奥村・小谷野(磯原)  
2回戦 小口・近川(結二)  
豊崎・伊藤(日二)  
山田・新井(結二)  
渡辺・藤田(日商)

○男子個人戦

- 5回戦 宮田・鈴木(古一)  
永井・若松(日一)  
2回戦 長峰・佐藤(銚一)  
皆川・畠山(日工)  
広瀬・百目鬼(館一)  
1回戦 浅羽・酒井(多賀)  
鯉淵・沢畑(水農)  
直井・町田(古一)

○女子団体戦

- 3回戦 磯原1-2指宿商(鹿児島)  
2回戦 磯原2-1岡山南(岡山)  
1回戦 シード

○男子団体戦

- 2回戦 古河1-0-2明星(大阪)  
1回戦 古河1-2-1松江南(島根)

第24回国体軟式庭球関東地区予選

1. 期日 9月6日, 7日

2. 場所 宇都宮市営コート

3. 参加種目 高校女子

監督 飯島 隆(土二)

選手 本多美智子・林知英子(日二)

奥村 光子・小谷野聖子(磯原)

大友 和子・村田 敬子(〃)

4. 戦績 第5位(4勝3敗)

茨城2-1神奈川 茨城2-1埼玉  
茨城3-0山梨 茨城1-2東京  
茨城1-2千葉 茨城1-2群馬  
茨城2-1栃木

5. 戦評 関東ブロック1県にしぼる予選のため厳しかったが、選手の調子は悪くないのでうまくゆけば代表権もとれると思った。

1日目は善戦して勝点をあげた。しかし2日目は強豪、東京、群馬、千葉に敗れ、結局、埼玉、茨城、千葉が同率。ルールに従って5位になった。

第24回国体軟式庭球競技

1. 期日 10月27日

2. 会場 長崎県長崎市営コート

3. 参加種目 高校男子

監督 渡辺 寿恵(土三)

選手 皆川 祐一(日工)

畠山 豊光(〃)

広瀬 正範(館一)

百目鬼晴喜(〃)

永井 良一(日一)

若松 宏(〃)

4. 戦績 茨城0-3愛知

永井松)2-4(水谷川

皆川)2-4(大園崎

畠山)2-4(宮崎

広瀬)3-4(後藤藤